# 4 事例紹介

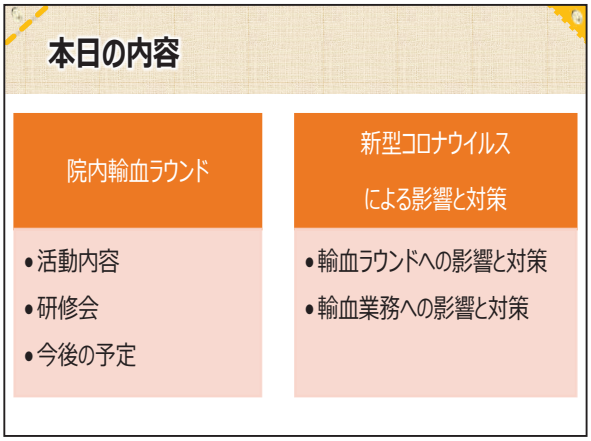
## 墨東病院の院内輸血ラウンドについて

〔演者〕 東京都立墨東病院　看護部看護科　宮田恵利子
〔演者〕 東京都立墨東病院　輸血科　藤田浩

【スライド1】

東京都立墨東病院、看護部看護科　宮田恵利子です。院内輸血ラウンドの活動内容について報告します。講演内容に、COI開示に当たることはありません。

【スライド2】




当院の輸血ラウンドは今までも実績はありましたが継続的ではなく中断している状況でした。2019年、臨床輸血認定看護師が３人誕生し、これを機に継続的に活動を維持するための輸血ラウンドチームが結成されました。

本日は活動内容、研修会、今後の予定、そして今年に入ってから話題となっている新型コロナウイルスによる輸血ラウンドチームへの影響、輸血業務への影響そして対策についてです。

【スライド 3】

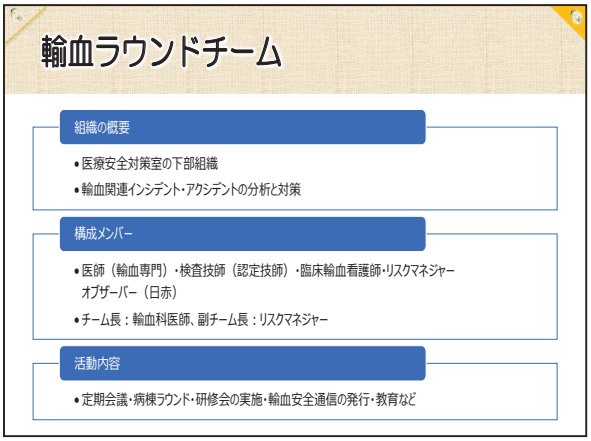
院内輸血ラウンドの活動内容、研修会についてです。

【スライド 4】

輸血ラウンドチームの組織の概要は、医療安全対策室の下部組織として、輸血関連インシデント・アクシデントの分析や対策を行うことです。

構成メンバーは医師２名、検査技師２名、臨床輸血看護師 4 名、リスクマネジャー 1 名、オブザ―バーで日赤の方１名です。

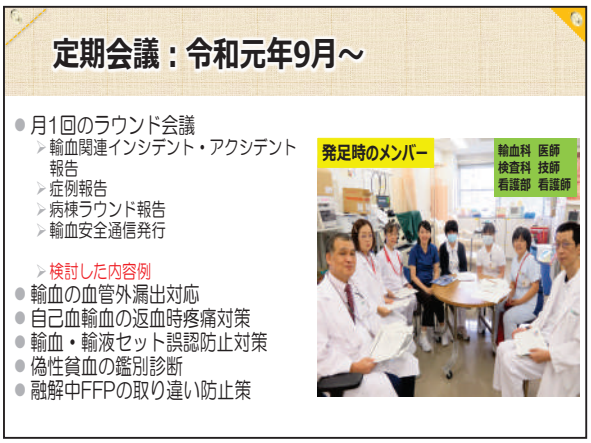
活動内容は、定期会議の開催、病棟ラウンド、研修会の実施、医療安全通信の発行、院内教育です。




【スライド 5】

定期会議は月に 1 回開催し、輸血関連インシデント・アクシデント報告、症例報告、病棟ラウンド報告をし、その後対策を論議しています。また、輸血安全通信の発行やマニュアルの改訂も行っています。

2019 年度に輸血ラウンドチームが結成されてから、輸血の血管外漏出時の対応策、自己血輸血の返血時の疼痛への対策、輸血・輸液セット誤認防止対策、犠牲貧血の鑑別診断、融解中の FFP の取り違い防止対策を講じました。

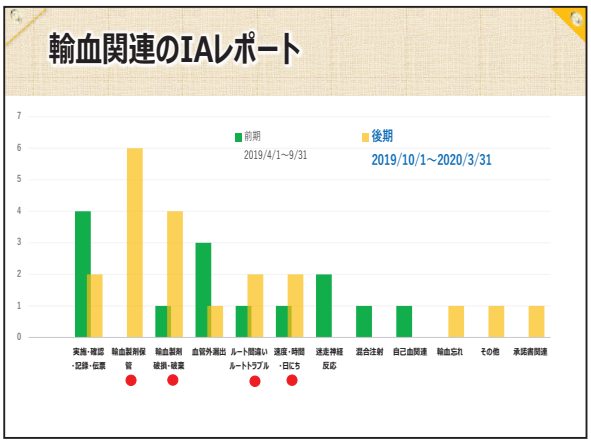


【スライド６】

クオリティ　インディケーターを設定し、輸血関連 I/A 率を QI 指標として活動しています。Plan として、上半期は活動をしていなかったため下半期の活動内容に合わせて活動前後の輸血関連 I/A 率を比較し、１年を通じての輸血関連 I/A 率を 0.3%未満にするとしました。

DO では、輸血ラウンドの実施は 2 か月に１回、輸血の使用の多い場所へ訪問し、所定の様式に基づいて聞き取り調査を行い、必要時指導を実施する。研修会を2か月に１回行う。月１回の輸血ラウンドチーム会議で輸血ラウンドの報告や輸血関連 IA レポートの報告と検証を行う。輸血ラウンドチーム活動報告は、毎月１回医療安全対策室で報告する。輸血ラウンドチーム活動報告は輸血療法委員会で報告するとしました。Check では、アクシデント発生事案には、即時に対応を行い、検証と再発防止策を確立するとし、四半期ごとに、輸血関連 I/A 率を確認し、効果的か否か検証しています。Action では、輸血ラウンドチームで検討し改善した内容は、輸血療法マニュアルや輸血看護手順で反映させ拡大医療安全対策室や輸血療法委員会にて周知すると共に医療安全対策の輸血の時に講義内容とその改善策について周知しました。

【スライド７】




こちらは輸血関連 IA レポートの内訳です。2019 年度に報告された IA レポートの総数は４５５１件です。そのうち輸血関連の IA レポートは 34 件の報告がありました。前期は実施、確認行為に関するレポートが多くみられましたが、後期は輸血製剤の不適切な保管やルート間違い、速度間違いに関するレポートの報告がありました。

【スライド８】

輸血・輸液ルートの誤認対策として、迷った時に適切なルートが選択できるように輸血安全ポスターを作成し注意喚起を促しました。

また、輸血ラウンドでは、輸液ルートと輸血ルートの置き場所を確認し、同じ引き出し内に置いてある場合は保管場所の移動をお願いしました。

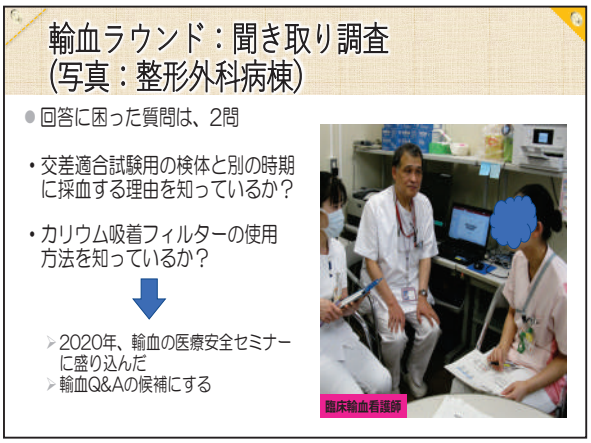
【スライド９】

研修会では各部署の特徴に合わせたテーマを選択し開催をしています。多くの職員が参加できるように１部署で２回実施しました。研修会終了後に部署のラウンドも行っています。

| | 病棟 | 研修内容 30分、2回 | 参加人数 |
|---|---|---|---|
| 9月 | 血内 | 内科系の輸血 | 15 |
| 11月 | 集中 | 外科系の輸血 | 15 |
| 1月 | 整形 | 整形外科の輸血と自己血輸血 | 18 |
| 2月 | NICU | 新生児輸血と安全 | 11 |
| 3月 | 救命 | 大量出血・大量輸血について・温度管理について | 18 |

【スライド 10】

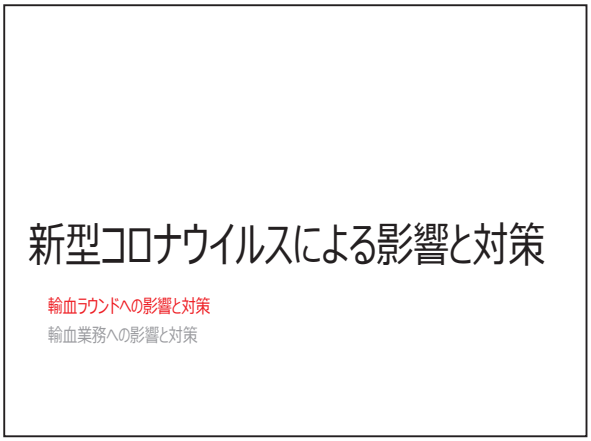
研修会実施後には聞き取り調査も実施しました。その際に、回答に困った質問は2問ありました。１つは、交差適合試験用の検体と別期に採血する理由を知っているか。もう１つは、カリウム吸着フィルターの使用方法をしっているかという質問に対してわからないという回答がありました。わからない内容を、2020年、e-ラーニングで開催した医療安全セミナーの輸血の内容に掲載しました。さらに、現在作成中の輸血Q&Aに掲載予定です。



【スライド 11】

輸血教育としては、臨床輸血看護師の研修への受け入れ準備、院内看護師教育、病院見学への協力をしました。こちらは実際の輸血の教育場面の１つです。日赤職員から、自分たちが用意した血液が血液センターから病院に払い出した後、実際に使用されるまでどう扱われているのか、どのようなルートをたどっているのか知りたい。という意見があり病院見学の受け入れを実施しました。見学者の意見は、血液がエンドユーザーまで届くところをみることが出来てよかったと講評でした。

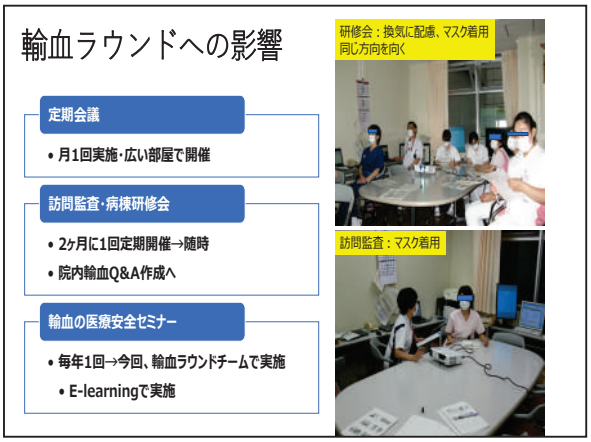
【スライド 12】




後半の新型コロナウイルスによる影響と対策については、輸血科の藤田が発表します。

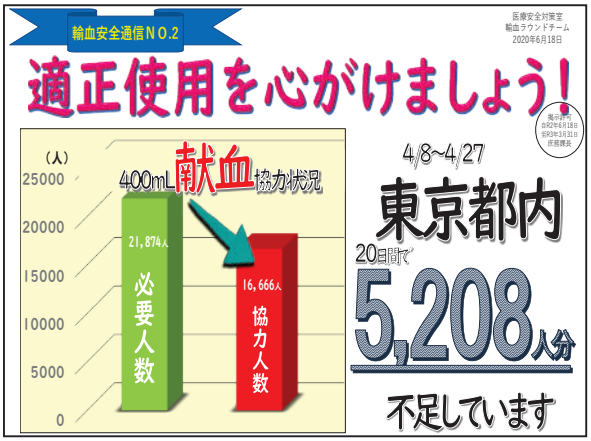
最初に、輸血ラウンドへの影響と対策を紹介します。

【スライド 13】




輸血ラウンドチームへの影響は、定期会議は、換気された広い部屋で、月1回開催は、休会なしで、マスクするなど感染対策を講じた上で、継続的に開催しました。訪問監査は、今年度は定期的に行わず、随時とし、1回行った様子を右写真に示します。換気を行い、同じ向きに座り、マスクしながらの聴講です。訪問監査に変わるものとして、輸血Q&Aを作製する計画を立てています。輸血医療安全セミナーは、講堂での研修を開催せず、台詞入りのスライド閲覧、e-learning導入で行いました。初めての試みでした。

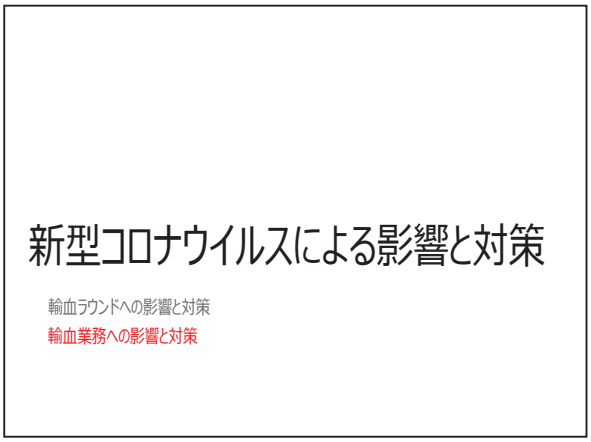
【スライド 14】




輸血安全通信 2 号です。献血者の推移を東京都赤十字血液センターから情報提供を受け作成しました。

【スライド 15】

輸血業務への影響を紹介します。

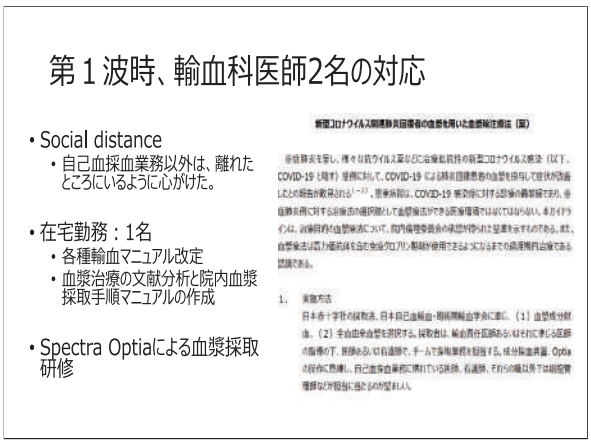



【スライド 16】

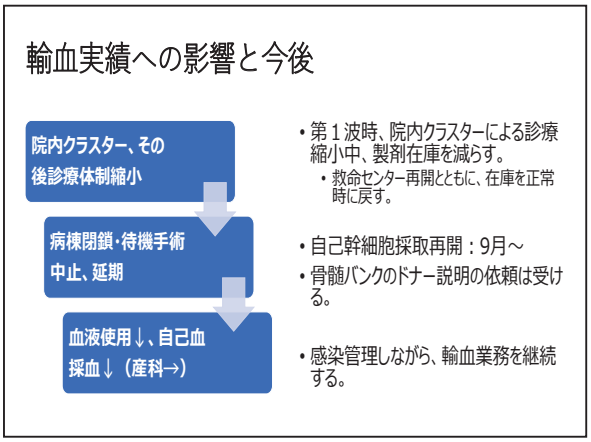
献血供給事業団の動線を患者動線と交わらないように変更し、social distanceを意識した血液の受け渡しを行っています。輸血検査実施者はマスクに加え、face shieldを着用しております。

【スライド 17】

第１波時の輸血科医師の対応です。social distance を心がけ、1 名を在宅勤務とし、その業務内容として患者回復者の血漿採取準備をしてもらいました。右がそのマニュアル案です。また、optia による血漿採取の研修を行いました。



【スライド 18】




最後のスライドです。第1波の際、院内クラスター発生により、診療縮小をいたしました。救命センター再開まで、血液在庫を減らしました。院内血液使用量や、待機手術数減少による自己血採血が減少しました。しかし、周産期医療は継続することができ、産科疾患の自己血採血は例年通りでした。自己血幹細胞採取は、9月から再開しました。骨髄バンクの確認検査、最終同意は、継続的に受け入れはしておりました。現在も感染管理に留意しながら輸血業務を行っています。

【スライド 19】

ご静聴ありがとうございました。

第１９回　東京都輸血療法研究会報告書
発行日　２０２１年３月
発　行　東京都赤十字血液センター　学術情報・供給課
印　刷　日本データ・サプライ株式会社